

【3-2】日常生活支え合い実践事業

地域住民の交流の場づくり事業 (鯖江市)

基礎情報

| | |
|------|-------------|
| 実施地域 | 鯖江市新横江地区 |
| 実施主体 | 鯖江市 |
| 所在地 | 鯖江市定次町108番地 |
| 代表者 | 鯖江市長 牧野百男 |



平成23年度の事業概要

市内の新横江地区にある「いきいき未来館」は児童センター併設のため、これを活用して、地域住民との交流、世代間の交流の拠点としての機能を有する施設に整備する。

- ・新横江児童センターの遊戯室と多目的ホールのバリアフリー化、老朽化が進んだ壁・床の改修
- ・地域交流事業の運営

現在の活動状況

児童センターが児童対象に行っていた毎月の行事を子ども会リーダー会と児童センター児童厚生員で企画。毎月趣向を凝らした企画で地区内の様々な方（高齢者の方中心）に行事のお手伝いをいただいている。ゲーム、紙飛行機づくり、木工教室、折り紙、当館で実施している「いきがい講座」の受講生の方からマジックやハーモニカを披露していただくことも。また行事運営に母親クラブ（高齢者の方中心）に携わっていただいております、食事のお世話等もお願いしている。他に児童対象に週1回囲碁教室・月1回茶道教室を開催し、地域のお年寄りに講師をお願いしている。

<概要>

月1回の児童センター主催の児童対象の行事に高齢者を中心とした地区住民の方に様々な形でお手伝いいただいている。地区住民と児童が同じ場所で顔を合わせて交流できる機会を演出する。

<状況>

月によって異なるが、月1回の行事開催で10名程度の高齢者の方にご協力いただいている別に、食事等のお世話をお願いしている母親クラブの方々ほとんど65歳以上の方10名程度

事業の実績、成果

月によって異なるが、月1回の行事開催で10名程度の高齢者の方にご協力いただいている別に、食事等のお世話をお願いしている母親クラブの方々ほとんど65歳以上の方10名程度
午前中「いきがい講座」を受講しているお年寄りにとって、児童の前で日頃学んでいることを発表するのは、いい刺激（いきがい）になっている。また核家族が進み日頃お年寄りとおふれあうことの少ない子どもたちにとっても、地域の様々な方に見守られ地域に育てられていることが分かり安心感を与えている。

工夫した点

お年寄りに過度な負担をかけないよう、和やかに児童とのふれあいを楽しんでもらえるよう、場の雰囲気づくりに配慮しています。



課題

来館者の方もある程度まで固定化されており、閉じこもりがちな高齢者の居場所づくりにはなっていない。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金で、バリアフリー化・床等を改修。

交流事業の運営に必要な消耗品費・食糧費・講師謝礼は、児童センター管理運営費および放課後子ども教室推進事業運営費で対応している。

今後の目標

地域の人にとってより身近な施設となるよう交流事業を充実させ、高齢者と児童だけではなく地区全体の人が集える地域交流の拠点として整備したい。



団体からのメッセージ

子どもたちの笑顔や笑い声がいっぱいの施設です。子どもたちと高齢者の方が自然に同じ空間でふれあっています。遊びにいらしてください。